アーカイブ通信 No.1

2014.7.1
No.1 初夏号

◆編集・発行：
ネットワーク・市民アーカイブ
◆ tel/fax: 042-540-1663
E-mail: simin-siryo@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/simin-siryo/
◆正会員１口 6000 円
賛助会員１口 3000 円（団体は２口以上）
◆ゆうちょ銀行　振替口座 00120-9-729226
口座名：市民アーカイブ

市民活動資料の拠点
「市民アーカイブ多摩」本格始動へ
運営組織ネットワーク・市民アーカイブ設立

市民活動資料センター「市民アーカイブ多摩」が、２０１４年４月12日に正式に開館しました。昨年12月から仮開館していましたが、資料や施設の整備が終わり、定期的に開館して所蔵資料の一般公開を始めています。

◆運営組織を設立・移行

本開館に先立ち４月６日、運営組織の設立総会を開催、新組織名を「ネットワーク・市民アーカイブ」と決めました。これまで「市民活動資料・情報センターをつくる会」として運動を進めてきましたが、これからは運営する会として活動を進めていくことになりました。

設立総会では組織名とともに会を運営していくための新たな会則や資料センターとしての初年度に取り組む事業の計画、予算などを決定しました。

ネットワーク・市民アーカイブは今年度次のような活動に取り組みます。

①「市民アーカイブ多摩」の運営
②運営と活動の安定的維持・充実のための組織体制と財政の確立
③広報・学習活動
④法政大学環境アーカイブズと寄託資料の公開に向けて協働

総会終了後は、開館記念集会を開催。杉山弘代表による新組織移行の経過や抱負の報告に続き、日本経済新聞社の松岡資明さんによる記念講演「アーカイブズが社会を変える」を行いました。

◆ぜひご入会ください

ネットワーク・市民アーカイブの会員を募集しています。年会費は、正会員６０００円、賛助会員３０００円。

設立総会での入会の呼びかけに対し、早速その場で入会してくださる方もあり、新組織にとって大きな励ましとなりました。その後、入会申し込みをしてくださった方を合わせて、現在正会員38人、賛助会員33人です。

◆毎週水曜と第２・４土曜の午後開館

「市民アーカイブ多摩」は４月12日から毎週水曜と第２・４土曜の午後、開館しています（８月13日は休館）。

まだまだ整備作業も続きますが、資料はきちんと整理・配架され市民の利用を待っています。ぜひご来館ください。８月末まではどなたも無料です。

市民アーカイブ多摩 所蔵資料紹介

〈ミニコミ１２００タイトル〉 生活者・当事者からの発信

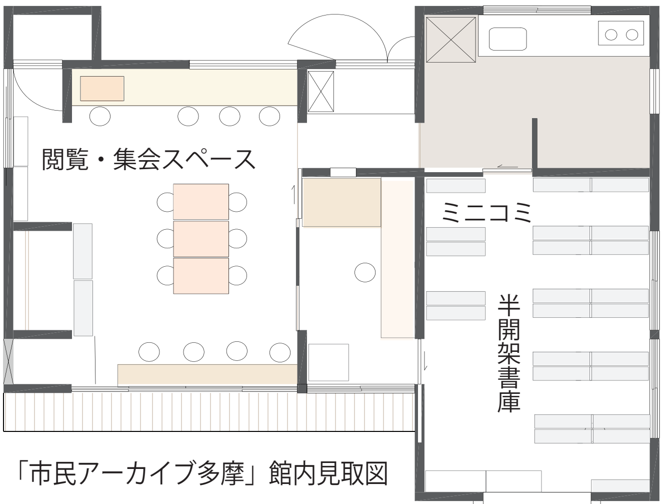
市民アーカイブ多摩で、現在閲覧できるのは、約１２００タイトルのミニコミ（団体や個人などが発行する通信や会報）です。半開架書庫に分類ごとにファイルに綴じたり、分厚いものはボックスに入れて並べてあり、データベースで検索もできます（ホームページにも分野別、地域別のリストを掲載）。

ミニコミは、マスコミと違ってさまざまな問題や生活課題に直面している人が、当事者の立場から発信している場合が多く、「これを伝えたい」という強い思いや意思があります。自分が疑問に思う問題の本質を知りたい時、マスコミでは伝わってこない視点を大切にしたい時、同じようなことに取り組む人や団体を知りたいときや、仲間探しなどにも使えます。

◆例えばこんな使い方

・自然エネルギーについて学習会をしたい。どんな講師がいる？
・家の近くの区画整理が始まった。同じような例は他の地域もある？
・子どもが学校に行かないことをどう考えればいいのか。
・自分の住んでいる地域で、自然観察会の催しに参加したい。
・ヘイトスピーチの背景は？　他の国ではどうか。
・自分もミニコミを作ってみたい！

——あなたが活用することで、ミニコミは更に元気になります。ぜひご来館ください。



「市民アーカイブ多摩」館内見取図

分野別ミニコミ数

分類番号と分野	ファイル数
00 市民活動総記	177
10 政治・経済	137
20 平和・戦争	43
30 人権・差別	110
40 環　境	149
50 公　害	23
60 社会福祉	259
70 教育・文化	182
80 生活・消費者	21
90 その他	58
（2013.5 現在）	1159

ミニコミ紹介①

「並木道」

—「市民アーカイブ多摩」で閲覧できるミニコミを発行者から紹介していただきます。

国立市内で発行のミニコミです。２０１４年６月で１２７号を数えています。最初は国立市の大学通りの高層マンションの住民運動の中で２００２年に始めました。メンバーの関心が広がり自主運営しています。現在は５～６人のメンバーで運営から印刷・丁合い、郵送まで行い、毎月２５０部を発行しています。景観・環境問題、反戦平和、天皇制・家制度、地域の歴史・民俗、音楽・マンガ等、メンバーの関心に応じて取り上げるテーマは多彩です。高知、長野、沖縄の人も連載しています。生産者と消費者が一致する、顔の見える雑誌を目指しています。以前は年２０００円の会費制でしたが、今年から１年の購読に必要な経費として完全カンパ・投げ銭方式にしました。基本的に遊びなので、おもしろくなくなったらそのうち自然消滅するでしょう。

月刊ですが、毎月発刊が遅れるので、つじつま合わせで年１～２回休みます。

最近は、紙媒体で自由に言いたいことが言える場は限られていますし、樹木伐採や反弾圧の問題等では武器にもしました。こういう場は貴重だと思います。他人には「ちょっと過激なタウン誌です」と紹介しますが、「ちょっとじゃない」とか「週刊誌的だ」とか人気です。読んでください。　（宗像充）

▽月刊。Ｂ５判、24頁。年間２０００円。くにたち公民館や図書館、一橋大学、喫茶店、居酒屋等に置いています。

問い合わせ０４２（５７６）９９６０（カフェ・ひょうたん島）

記憶と記録の場をめぐる旅（1）
～資料館を訪ねて～

――長年、悩みの種だった「どうすれば自前の資料センターができるか」。そのために各地の資料館めぐりもした。が、創設後も束の間、「どのように運営し、維持してゆけばよいのか」に、今また私たちは思い悩んでいる。開館からまだ日が浅く、課題は山積だが、なお「記録と記憶の場をめぐる旅」を目論むのは、そうした悩みゆえのことで、種々のアーカイブや資料館の運営に携わり、苦労を重ねてこられた先輩方や仲間たちの知恵と経験から学びたい。

重監房資料館

草津温泉にある「重監房資料館」と「リーかあさま記念館」を、今回は訪ねた。4月28日付けの『朝日新聞』夕刊の記事「重監房の記憶　後世に／ハンセン病患者を監禁、資料館30日開館／草津・栗生楽泉園」が切り抜いてあったので、連休がとれた5月末に思い切って出かけた。草津までは、代々木駅近くからJR高速バスが出ていることを知り、往復とも利用したが、経済的に安上がり、時間のやりくりにも便利だった。

そもそも「重監房」とは何か。日本の国内には、現在14のハンセン病療養所（国立13、私立1）がある。かつてそれら療養所には、患者を懲罰目的で監禁するための「監房」あるいは「監禁室」と呼ばれる施設があり、草津の療養所（栗生楽泉園）に設けられた重監房（正式には「特別病室」）は、さらに厳しい懲罰を課すための施設だった。かつて「草津送り」という言葉が囁かれ、全国のハンセン病療養所で暮らす患者たちに、その存在が怖れられていた、という証言が残っている。

重監房跡

重監房（特別病室）が栗生楽泉園に竣工したのは、1938（昭和13）年のことだ。ハンセン病患者の歴史をつぶさに眺めてゆくと、竣工の2年前の36年に、瀬戸内海にある長島愛生園で、患者が待遇の改善と自治を要求した「長島事件」があった。監房や監禁室あるいは重監房は、1931年の「国立癩療養所患者検束規定」に基づいて運用されたが、次第に待遇や処遇の改善などを求めた患者への懲罰の性格が強くなったとされる。国会でその人権侵害性が問題視され、廃止された47年までに、重監房には93人の患者が収容され、うち23人がそのことが原因で亡くなっている。

昨2013年に重監房廃止以来初めて、跡地の発掘がおこなわれ、その調査結果を受けて、厚生労働省が国立の重監房資料館を設置した。目的について、リーフレットには「重監房とハンセン病問題に関する資料の収集・保存と調査・研究の成果を発表することにより、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促すことで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す」とある。展示室には重監房が実寸大に再現されており、出土した遺物（南京錠やお椀、眼鏡など）と関係者の証言を中心とした展示構成になっている。閲覧できる資料は未整備だが、学芸員が配属されているので、重監房やハンセン病の歴史についての解説や質問には応じてくださる。なお、重監房資料館訪問の折りには、重監房跡地に立つことをお忘れなく。実際の重監房跡地は、資料館からは少し離れているので、資料館で場所をお訊ねになってください。

リーかあさま記念館

草津を訪ねるまでは「リーかあさま記念館」について、私はまったく知らなかった。重監房資料館に置いてあったチラシにより、「かあさま」と草津で慕われたコンウォール・リーというイギリス人の女性を初めて知り、また草津におけるキリスト者とハンセン病患者との関わりを教えられた。また、チラシには「リーかあさま記念館」の他、彼女とその同志たちの墓所、さらには「コンウォール・リー頌徳公園」の紹介があり、重監房資料館を辞した後は、心勇む思いで、それらの地を訪ね歩いた。

「リーかあさま記念館」は、草津聖バルナバ教会に隣接した小さな資料館で、突然の訪問にもかかわらず、快く迎え入れてくださった。ここでは、温泉の効能に望みをかけて多くのハンセン病患者がこの地にやってきたこと、それにより集住地区が形成され、やがてコンウォール・リーたちキリスト者による患者支援の活動が始まったことなどをたどることができた。参考文献が幾点も販売されており、重監房資料館訪問の際には、リーかあさま記念館にもお立ち寄りになることをぜひお奨めします。

（杉山弘）

◇重監房資料館
群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533
電話 0279-88-1550、FAX 0279-88-1553
URL http://sjpm.hansen-dis.jp　・入館無料
開館日（4/26-11/14）：水～日 9：30-16：00
休館日：月火・祝日の翌日、資料整理日（冬季は団体のみ対応）
設置主体：厚生労働省（国立）

◇リーかあさま記念館
群馬県吾妻郡草津町大字草津２８９草津聖バルナバ教会併設
電話 090-5311-6760、FAX0279-88-3640
開館日（4～11月）：平日と土曜 10：00-15：00、日曜 12：00-15：00
休館日：火曜日、臨時休館日、12月～3月
設置主体：日本聖公会

アーカイブ多摩日誌

◇新緑の中、いざ開館

4月12日オープン。取材にきた新聞記者、看板設置を確認しに来た設計士、当番とボランティア、そして早々に来館してくれた利用者の方でスタートした。

◇当番をやりくりしながら

毎回の開館日には当番2人体制を組む。現在、当番に入る人は7人。ボランティアに入ってくれる方は5人、大学院生、ミニコミ発行者など。資料の整理は細かい作業が多い。ミニコミの仕分け、データ入力、ファイル繰りこみ、チラシの分類と、多くの人手が必要。一つ一つの資料を手に取りながら、分類に悩み、ファイル探しで目を皿にし、時に手を止めてチラシやミニコミ発行者の強い思いの中に浸っていると、開館時間はあっという間に過ぎ去っていく。

◇ミニコミをマスコミが取材

4～5月はマスコミ等の取材・記事掲載が相次いだ。4月12日毎日新聞「ミニコミ幅広く展示」、4月14日読売新聞「ミニコミ誌など1200タイトル」、4月15日都政新報「市民活動資料を活用しよう」、5月22日朝日新聞「市民活動の足跡集めて残す」。マイテレビや地域紙アサココの取材も入った。

◇新しい出会い、いろいろ

5月某日、新聞記事を握りしめて2人来室。ご自身も市民活動をしているFさん。興味のある分野のミニコミ類を「これは知ってる」「こんな団体もあるんだ」と熱心に見て行かれ、帰り際に入会してくれる。なかなか来られないけど、こうしてきちんと保管されていることがすごいと言われ、元気をもらう。開館を祝って花を持ってきてくださった方、自身が収集した通信を持ってきてくださる方、自分が好きな通信を読みに2週間ごとに来館する方、近所を通りかかって立ち寄られた方など、数としては多くはないが、場所があるからこそ、新たな出会いがあった。新緑はあっという間に深緑に。

運営委員会の動き

4月23日　第1回運営委員会開催（検討事項：会則変更、活動計画追加、組織案、新組織の会員募集、広報活動、資料センターの会報について他）

5月21日　第2回運営委員会（検討事項：組織編成について、7月集会の内容検討、資料室プロジェクト、資料センター会活動報告案確認、運営委員会の定例化について他）

6月20日　第3回運営委員会（検討事項：入会者確認、7月集会、『アーカイブ通信』内容、資料室プロジェクト検討事項確認他）

ご入会（入金）ありがとう

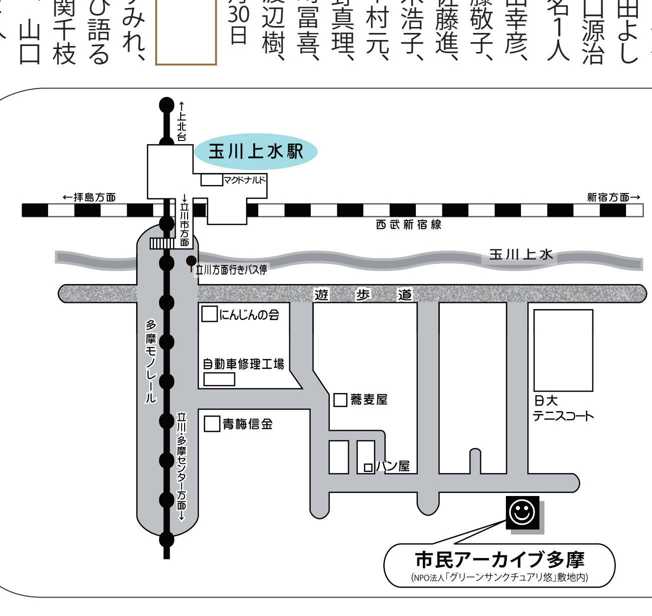
◇正会員38人＝荒井容子、石川敬史、井筒雅子、伊藤宏、江頭晃子、大泉敦子、大門正克、太田光紀、長田薫、加藤一夫、加藤裕史、神屋敷和子、岸中友子、北川フラム、後藤多美子、小林繁夫、佐藤啓子、鈴木美和子、杉山弘、住田啓子、竹中薫、田中ヒロ、田中幹子、平川千宏、平野泉、藤澤浩子、堀渡、牧原憲夫、増沢航、町田よし子、松野哲二、宮﨑省吾、道場親信、山口源治郎、山口真理子、山田征、山家利子、匿名1人

◇賛助会員33人＝青島顕、五十嵐仁、石田幸彦、猪股澄子、江澤和雄、大場すみれ、加藤敬子、加藤健一、児玉史子、是枝洋、齋藤眞弘、佐藤進、杉原広子、鈴木輝美、高江洲昌哉、髙木浩子、土屋紀義、富田美樹子、長島祐基、中村元、馬場悦子、浜地田鶴子、福本和正、星野真理、細田伸昭、保浦勝政、堀内寛雄、森﨑富喜、山内佳江、吉田美子、吉村りよみ、渡辺樹、匿名1人

※敬称略・～6月30日

カンパありがとう

荒井容子、井筒雅子、梅田久枝、大場すみれ、長田薫、小滝篤子、五味正彦さんを偲び語る会、是枝英子、鈴木輝美、関口澄子、関千枝子、染谷美智子、高橋貞子、松田義充、山口源治郎、山口美代子、吉田美子、匿名2人



市民アーカイブ多摩

- 開館日時：毎週水曜日（8/13 休館）、第 2・4 土曜日
- 開館時間：13：00 ～ 16：00
- 所在地：立川市幸町 5-96-7（多摩モノレール、西武線「玉川上水駅」徒歩 8 分）
- 入館料：100 円（会員、募金者無料）
  ※ 8 月末まで開館を記念して無料
- 見られる資料：2002 年以降の市民活動団体や個人が発行している通信や会報など 1200 タイトルほか（ホームページにタイトル掲載しています）。